

麗うるわしき隠れ里

秋田内陸縦貫鉄道の無人駅「笑内駅」近くから国道をそれて、尾根越えの500メートルあまりの細く長いトンネルを抜けると、50軒ほどの家々が軒を連ねる山間集落がこつ然と現れる。

それが根子集落だ。根子と集落の外を結ぶ根子トンネルは昭和50(1975)年の完成。それまでは里に下りるにも自分の足で歩いて山越えしなければならぬ辺境の地であった。

一見するととても生活に不便そうな地に、人は住みつき、そして未だに、50世帯もの集落が残っているのか。

集落の近くでは矢じりが出土するなど、先史時代からの人の息づかいの名残もあるが、集落の前自治会長の佐藤哲也さんの話によれば、「根子は源氏の落人の隠れ里」というのがほぼ定説になっているようだ。

根子の住人には佐藤姓が多いが、源義経の家臣に佐藤継信・忠信という兄弟がおり、根子に住みついたので。

根子の住人には佐藤姓が多いが、源義経の家臣に佐藤継信・忠信という兄弟がおり、根子に住みついたので。

根子の住人には佐藤姓が多いが、源義経の家臣に佐藤継信・忠信という兄弟がおり、根子に住みついたので。

熊の胆はよく売れたので根子の人たちは裕福で、また、行商で広く世間を見てきたことから、子弟への教育にも熱心になって、その結果なのか、根子の出身者で教師になった人はとても多い。昭和38(1963)年に旧国鉄阿仁合線が鷹巣から比立内まで通じて、初めて汽車通学で米内沢の高校まで通えるようになった。それ以前は、町場に下宿をさせてまで学校に通わせていたという。

山あいの集落ながら、家々は「今風」の建物が多く、その点では、日本の原風景的な山村のたたずまいとはいささか趣きを異にする。そのあたりも、この地区が早くから熊の胆の商いで潤い、現代的な生活文化の吸収にも意欲的であった証であろう。

山里の春は遅い。雪が解けたら、あらためて訪れてみたい地である。

国の重要無形民俗文化財に指定されている根子番楽には弁慶が登場する舞もあり、ここにも源氏とのつながりを漂わせる。公演は毎年お盆に根子の番楽伝承館(旧根子小学校体育館)で催される